

# Leader's TOPICS

## SDGs について (持続可能な開発目標)

副代表理事 自然環境部会 吉岡嗣二郎



「SDGs (エスディージーズ) を進めていますか？」  
国や地方自治体の情報発信で近頃よく聞かれますが、一般の方々にはまだ認知度が低く、また、目標を掲げた方々は行動として実践されているのでしょうか。「SDGs」はまだまだ発展途上、そこで、「SDGs とは」、「実施状況」、「関連する取り組み」、「問題点」などについて簡潔に紹介します。最後に当会の SDGs 対応方針を示しました。

■SDGs とは、Sustainable Development Goals の略称で国連が提唱する「持続可能な開発目標」です。目標は 17 項目あり、「貧困、飢餓、健康、教育、差別、水、生きがい、消費、エネルギー、気候変動、自然保護、平和、連携」の確保や改善など多岐に渡っています。さらに 17 の目標にはそれぞれに実現のための合計 169 のターゲットがあります。これらターゲットを実現させ持続可能な社会を構築しようとするものです。それでは、行政機関、教育機関や企業の実施状況 (取り組み) を見てみます。

■地方自治体である県では、「かながわの SDGs」として取り組みを掲げており、県内の市町や企業においても同様な取り組みがあります。これを進めている企業や団体に対してパートナーを組む募集も行われています。(「かながわ SDGs パートナー」を募集！)

■教育機関においては「持続可能な開発のための教育」ESD (Education for Sustainable Development) が実施されています。2003 年に「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」がスタートし、2012 年には、現在の「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」に改訂され様々な手法で実践する教育機関が増加し、環境教育が模索されています。

■企業では、CSR の取り組みが盛んに行われています。CSR とは「企業の社会的責任」のことです。最近の CSR の具体策として、法令の順守 (コンプライアンス)、内部統制 (ガバナンス) などを掲げ、SDGs に近づきました。

■いずれの取組においても SDGs は、一過性のブームに終わらせない工夫が必要になります。なぜなら、ここに掲げた目標が人間を含め、全ての生き物の持続可能な生存にかかわることなのです。そして、その工夫とは「身近なこととしてとらえる」ための「目標の理解と実践」にあります。よく勉強会などが行われることがあります。その後に「SDGs は知っています」と聞くことがあります。SDGs は知識として現状を知ることだけではなく、「どうすべきか」を考え実践することです。

■具体的な「環境に良いこと」とは、「面倒で何かを我慢するようになる」と聞くことがあります。本来は苦しみを分かち合い、改善後 (達成後) の喜びを自分の喜びとすることにあります。目のあたりにすることができない目標も多くありますが、「正しい行動に自分自身を導く」ことが必要であると思います。

さらには、目標を達成するだけでなく、達成した目標を継続することが「持続可能な社会の構築」の本来の達成になります。小さな目標でもよく、自分に合った目標を少しずつ達成していきましょう。

■当会では、環境保全・環境学習のコンセプト「環境・循環社会の構築、地球温暖化の抑制、生物多様性の維持、持続可能な学びの開発を目指す」として活動を実践しており、SDGs の目標達成に貢献しております。